

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成31年1月24日(2019.1.24)

【公開番号】特開2018-116468(P2018-116468A)

【公開日】平成30年7月26日(2018.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2018-028

【出願番号】特願2017-6728(P2017-6728)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/01 (2006.01)

G 0 6 F 3/0484 (2013.01)

G 0 6 F 3/0346 (2013.01)

G 0 6 F 17/22 (2006.01)

A 6 1 B 3/113 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/01 5 1 5

G 0 6 F 3/01 5 1 0

G 0 6 F 3/0484 1 2 0

G 0 6 F 3/0346 4 2 3

G 0 6 F 17/22 6 2 3

A 6 1 B 3/10 B

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月10日(2018.12.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

ユーザからの文字入力の操作を受け付ける操作受付部（16）と、
ユーザの脳活動を検出する脳活動検出部（8）と、
ユーザの視線方向を検出する視線方向検出部（12）と、
ユーザからの文字入力の操作が受け付けられると、その受け付けられた文字を入力文字として文字表示領域（32）に表示させる第1の表示制御部（6a）と、

ユーザからの文字入力の操作により受け付けられた文字が入力文字として表示された後の前記脳活動検出部の検出結果を用い、その入力文字に対応する交換候補文字を提示する必要の有無を判定する提示必要判定部（6b）と、

交換候補文字を提示する必要が有ると判定されると、複数の交換候補文字を交換候補表示領域（34c～34e）に表示させる第2の表示制御部（6c）と、

交換候補文字が表示された後の前記視線方向検出部の検出結果及び前記脳活動検出部の検出結果を用い、入力文字を交換候補文字と交換する必要の有無を判定し、入力文字を交換候補文字と交換する必要が有ると判定すると、交換候補文字のうちから交換対象文字を選択する交換必要判定部（6d）と、

交換候補文字のうちから交換対象文字が選択されると、その選択された交換対象文字を確定文字として確定する文字確定部（6f）と、を備えた電子情報処理システム（1）。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項10】

ユーザからの文字入力を受け付ける操作受付部（16）と、ユーザの脳活動を検出する脳活動検出部（8）と、ユーザの視線方向を検出する視線方向検出部（12）と、を備えた電子情報処理システム（1）の制御部（6）に、

ユーザからの文字入力を受け付ける操作受付手順と、

ユーザからの文字入力の操作を受け付けられると、その受け付けられた文字を入力文字として文字表示領域（32）に表示させる第1の表示制御手順と、

ユーザからの文字入力の操作により受け付けられた文字が入力文字として表示された後の前記脳活動検出部の検出結果を用い、その入力文字に対応する交換候補文字を提示する必要の有無を判定する提示必要判定手順と、

交換候補文字を提示する必要が有ると判定すると、複数の交換候補文字を交換候補表示領域（34c～34e）に表示させる第2の表示制御手順と、

交換候補文字が表示された後の前記視線方向検出部の検出結果及び前記脳活動検出部の検出結果を用い、入力文字を交換候補文字と交換する必要の有無を判定し、入力文字を交換候補文字と交換する必要が有ると判定すると、交換候補文字のうちから交換対象文字を選択する交換必要判定手順と、

交換候補文字のうちから交換対象文字を選択すると、その選択した交換対象文字を確定文字として確定する文字確定手順と、を実行させるコンピュータプログラム。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項1に記載した発明によれば、操作受付部（16）は、ユーザからの文字入力の操作を受け付ける。脳活動検出部（8）は、ユーザの脳活動を検出する。視線方向検出部（12）は、ユーザの視線方向を検出する。第1の表示制御部（6a）は、ユーザからの文字入力の操作を受け付けられると、その受け付けられた文字を入力文字として文字表示領域（32）に表示させる。提示必要判定部（6b）は、ユーザからの文字入力の操作により受け付けられた文字が入力文字として表示された後の脳活動検出部の検出結果を用い、その入力文字に対応する交換候補文字を提示する必要の有無を判定する。第2の表示制御部（6c）は、交換候補文字を提示する必要が有ると判定されると、複数の交換候補文字を交換候補表示領域（34c～34e）に表示させる。交換必要判定部（6d）は、交換候補文字が表示された後の視線方向検出部の検出結果及び脳活動検出部の検出結果を用い、入力文字を交換候補文字と交換する必要の有無を判定し、入力文字を交換候補文字と交換する必要が有ると判定すると、交換候補文字のうちから交換対象文字を選択する。文字確定部（6f）は、交換候補文字のうちから交換対象文字が選択されると、その選択された交換対象文字を確定文字として確定する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

ユーザが文字入力の操作を行うときに、ユーザが意図する文字が入力された場合と意図しない文字が入力された場合とでユーザの脳活動に差が発生することに着目した。ユーザが文字入力の操作を行うと、その後のユーザの脳活動の検出結果を用い、入力文字に対応する交換候補文字を提示する必要が有ると判定すると、複数の交換候補文字を表示する。そして、その後のユーザの視線方向及び脳活動の検出結果を用い、入力文字を交換候補文

字と交換する必要が有ると判定すると、交換候補文字のうちから交換対象文字を選択し、その選択した交換対象文字を確定文字として確定する。